

9 アヴィセンナ（イブン・シーナ）の 「医学典範」（ラテン語訳）における 精神医学（第二回）

濱 中 淑 彦

筆者の個人的見解によれば、蘭学以後の近代日本医学を理解する上で必須と思われる原典に依拠した西欧医学史の理解は、今日にいたるも未だに甚だ不十分と言わざるを得ない。昨年は、主要部分の近代語訳・邦訳がないAvicennaのラテン語訳「医学典範」（Basel版、1556/1976）の全体の構成と、「精神疾患」論が占める位置について検討したが、今回は精神疾患各論に立ち入るに先立ち、その基盤にある医学心理学について述べる。これに該当する部分は第1部第6教則で、自然的能力 *virtutes naturales*（消化、貯蔵、排泄などの奉仕型能力）から区別される生命的能力 *virtutes alhauianie, i. vitales*, 及び心的能力 *virtutes animales* を論じた第4—6章 (pp. 49-51) である。①「生命的能力とは様々な身体部位(器官) mem-

bra が、感覚と運動の能力を受け入れ、様々な生命機能 *operationes vitae* を遂行するに先だって受容する能力」であり、肝臓で造り出された該当する混和状態の体液の濃厚な粒子から形成された器官とは異なり、内在熱 *calorinatus* をもつ心臓で体液の稀薄な粒子から生じた蒸気 *vapores* に由来するものが息吹き（精气）*spiritus*, 生命力である。これには精气の拡散 *dilatatio* と緊縮 *constrictio* から生じる恐怖や怒りの運動 *timoris et irae motiones* も含まれる。そして生命的能力が適切な混和を伴って生じ、それが諸器官に提供されると、心的能力を伴って生じ、それが諸器官に受け入れられる。②心的能力には、受容的心的能力 *virtutes animales comprehentes s. comprehensivae* と、動因的心的能力 *virtutes animales motivi* の二つがあり、前者のうち更に顕在的（外的）感覚能力 *virtus comprehensiva manifesta s. sensibilis*（五感覚、触覚を細分すると八感覚）と潜在的（内的）感覚能力 *virtus comprehensiva occulta s. animalis* が区別される。更に内的感覚能力または心的能力は五つの能力を含む、①共通感覚 *sensus communis* と想像・表

象 *phantasia* (医学者は両者を一つとし、哲学者は二つを区別)、②思考能力 *virtus cogitativa* (厳密には本能的な心的直観能力 *virtus existimativa animalis* が働く場合は想像・表象能力 *virtus imaginativa*, 理性能力 *virtus rationalis* が支配する場合は思考能力として区別)、③本能的・非理性的な心的直観能力 *virtus existimativa animalis*, ④保持的及び想起的能力 *virtus conservativa & memorialis* (記憶と想起)、⑤人間的理性能力 *virtus humanarationalis*。この医学的心理学は、*Aristoteles*、*Galenos* 以来の伝統に立つものであることは言うまでもないが、情動(従って情念)を生命的能力に含めて心的能力から区別し、また医師は動物にも備わる本能的な直観能力と、動物にはない人間的理性能力には関心を払わないとして、医学の関心事である他の三つの能力を脳の異なる部位と関連づける。

即ち共通感覚と想像・表象の「座と機能の基盤 *eius sedes & operationis eius principium*」を前脳室 *ventriculus cerebri* (脳室と脳前(方の内奥)部とも訳)に、思考「能力の座」を中脳室 *ventriculus cerebri medius* (脳室と中(内奥)部)、記憶と想起の「場所 *locus*」を後の脳

室(脳室と後(方の内奥)部)に局在せしめ、各部位の混和または構造の損傷によって、該当する各能力の障害が生じると解した。この病理学説は *Alexandrea* 学派、*Galenos*, *Oreibasios*, *Poseidonios*, *Emesia* の *Nemesios* などに由来するものであり(濱中 1983, *Pigeaud* 1992)、内的感覚能力の概念は、キリスト教神学(*Aristoteles* の共通感覚とはほぼ同義の *Augustinus* の内感覚 *sensus interior*) から導入されたが、これが三つの心的能力を含むようになったのは、アラビア医学 (*Humain ibn Ishaq*, *Rhazes*) 以来のことである(*Avicenna* 自身の記述には一貫しない部分が残る)。この医学的心理学は、ルネッサンス以後の西欧医学にも様々な形で、部分的ではあれ継承されることになった。

(名古屋市立大学医学部精神医学教室)